



北区新庁舎新築基本設計業務委託プロポーザル記録誌

令和6年4月



目次

1. 新庁舎の整備

- 1.1 区長からのメッセージ . . . 3
- 1.2 新庁舎検討のこれまで . . . 4

2. 審査委員会

- 2.1 審査委員 . . . 7
- 2.2 委員長の総評 . . . 8
- 2.3 各委員の総評 . . . 10

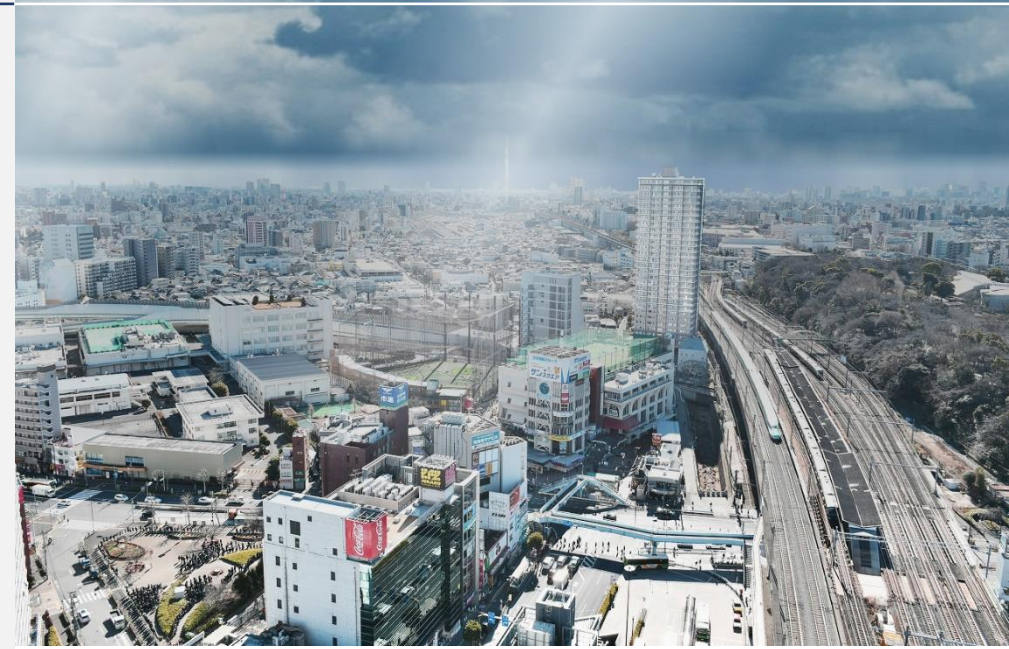
3. 選定プロセス

- 3.1 プロポーザル審査を振り返って . . . 13
- 3.2 第1回審査委員会 . . . 14
- 3.3 第2回審査委員会 . . . 15
- 3.4 公開プレゼンテーション . . . 16
- 3.5 第3回審査委員会 . . . 18

4. あとがき

- あとがき . . . 21
(小野田委員長×やまだ区長対談より抜粋)

1. 新庁舎の整備



1.1 区長からのメッセージ

新庁舎整備事業は、区民の皆さまの関心が高く、長期にわたる事業です。北区でも、新庁舎の開庁をただ待つだけでなく、現庁舎においても、自分たちの職場環境を良くしたいという熱意を持った職員でDX推進プロジェクトチームを発足させ、DXの観点から職場環境改善の取組みを始めています。区民の皆さまには、高い関心に応えるため、できるだけ情報を公開しながら、ご意見を伺い、誰もがその検討経過を確認できるようにしたいと考えています。その効果的な情報公開の取組のとして、北区としては初の試みとなる、最終審査の事業者プレゼンテーションを、公開にて開催しました。

基本設計事業者選定のプロポーザル審査では、優れた提案力と、自由な発想を持つ設計者を選定することと、最終審査の事業者プレゼンテーションも可能な限り公開できるように、審査委員会は、高度で専門的な知見を有し、公開プレゼンテーションの経験もある外部学識経験者中心に構成いたしました。

本記録誌は、新庁舎の基本設計者選定プロポーザルをまとめたものです。どのように基本設計者が選定されたのか、どのような案を提出した提案者が選定されたのか、想像を膨らませながら本誌をご覧くださいいただければと思います。

令和6年4月
東京都北区長

やまだ 加奈子



1.2 新庁舎検討のこれまで

令和4年度末に策定した新庁舎建設基本計画（以下「基本計画」という。）では、新庁舎検討のこれまでの通りまとめました。

1 検討経過の概要

区では現庁舎を改築し概ね令和15年度頃の新庁舎開庁を目指しています。これまでの検討経過は表のとおりです。

2 基本計画の位置づけと目的

平成23年度に策定された基本構想では、基本理念やめざすべき庁舎像が示され、10年以上経過した現在においても変わらない普遍性を持っています。一方で、新庁舎の建設予定地が国立印刷局王子工場用地の一部と選定されてからは、王子駅周辺まちづくりが進むことへの期待とともに、近年の大規模災害に対する不安も高まっています。また、AIやICTの発展によりテレワークや手続きのオンライン化が進む等、働く環境や行政サービスを取り巻く社会情勢は日々変化しています。そこで基本計画は、基本構想で定めた内容を出発点として各項目について選択と具体化を図り、新庁舎建設の次の段階である、設計を円滑に推進するためのものと位置づけています。

3 整備基本方針

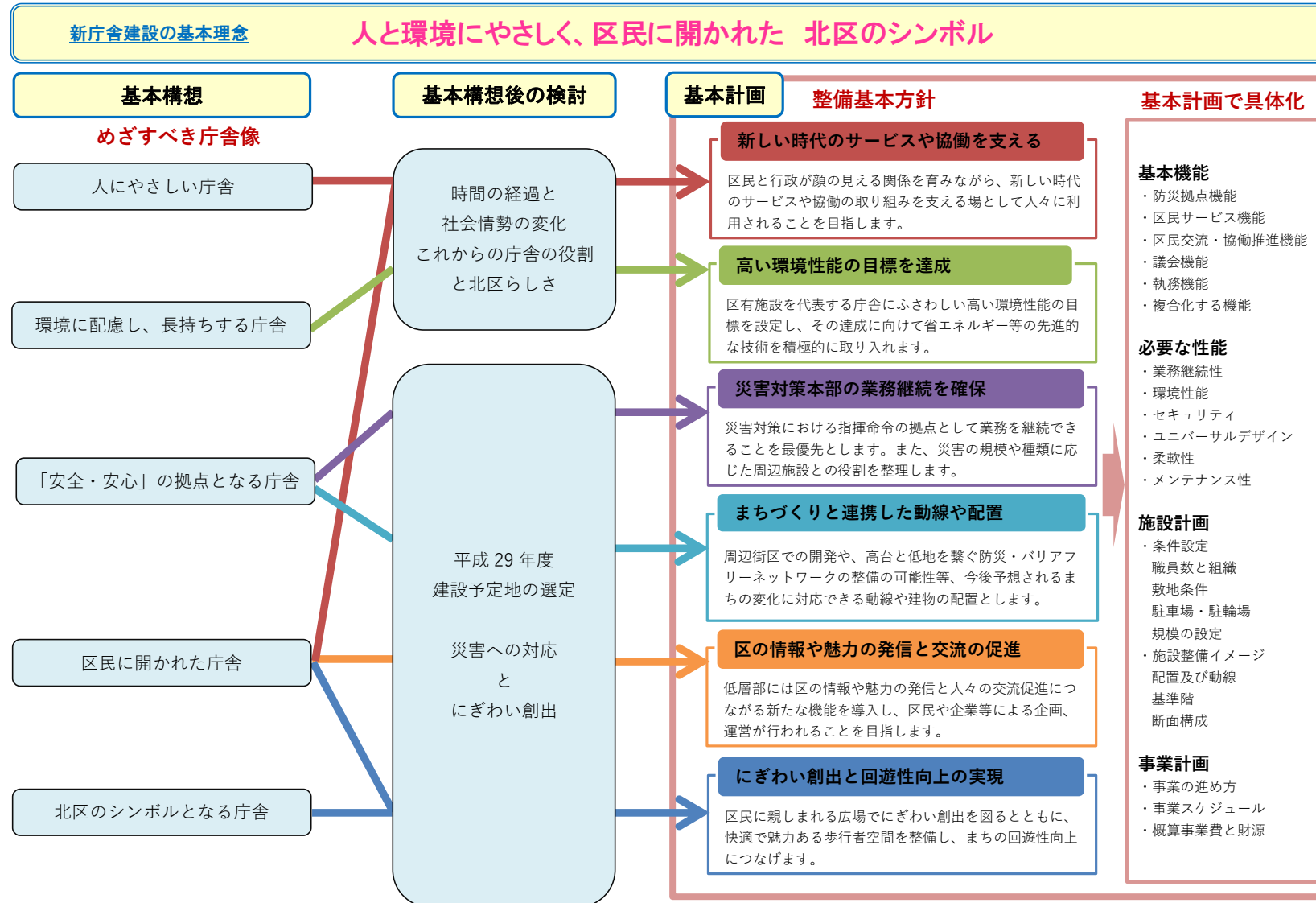
基本計画では、基本構想以降における建設予定地の選定や時代の変化により生じた新たな課題に関する新庁舎整備の方向性を加え、各項目の選択と具体化を進めるための基本的な考え方として、次ページの通り、整備基本方針を定めました。

年度	概要
平成 7～23 年度 平成 7 年度 平成 23 年度	<u>耐震診断・耐震補強を実施</u> 現庁舎の耐震診断調査を実施 現庁舎の暫定耐震補強工事を実施
平成 17～21 年度 平成 21 年度 平成 21 年度	<u>庁舎のあり方検討</u> 「東京都北区庁舎のあり方専門委員会」を設置 「庁舎のあり方に関する基本方針」を策定
平成 22～23 年度 平成 22 年度 平成 23 年度	<u>基本構想の策定</u> 「新庁舎建設基本構想検討会」を設置 「東京都北区新庁舎建設基本構想」を策定
平成 26～29 年度 平成 29 年度 平成 29 年度 平成 29 年度	<u>建設予定地の選定</u> 国立印刷局王子工場用地の一部を建設予定地として選定 「国立印刷局王子工場用地の一部取得に関する協定書」を締結 「王子駅周辺まちづくりグランドデザイン」を策定
平成 30～令和 4 年度 平成 30 年度 令和元年度 令和 4 年度 令和 4 年度	<u>基本計画の策定</u> 「東京都北区新庁舎建設基本計画専門家会議」を設置 区民ワークショップの実施 「東京都北区新庁舎建設基本計画」を策定 「王子駅周辺まちづくりガイドライン」を策定

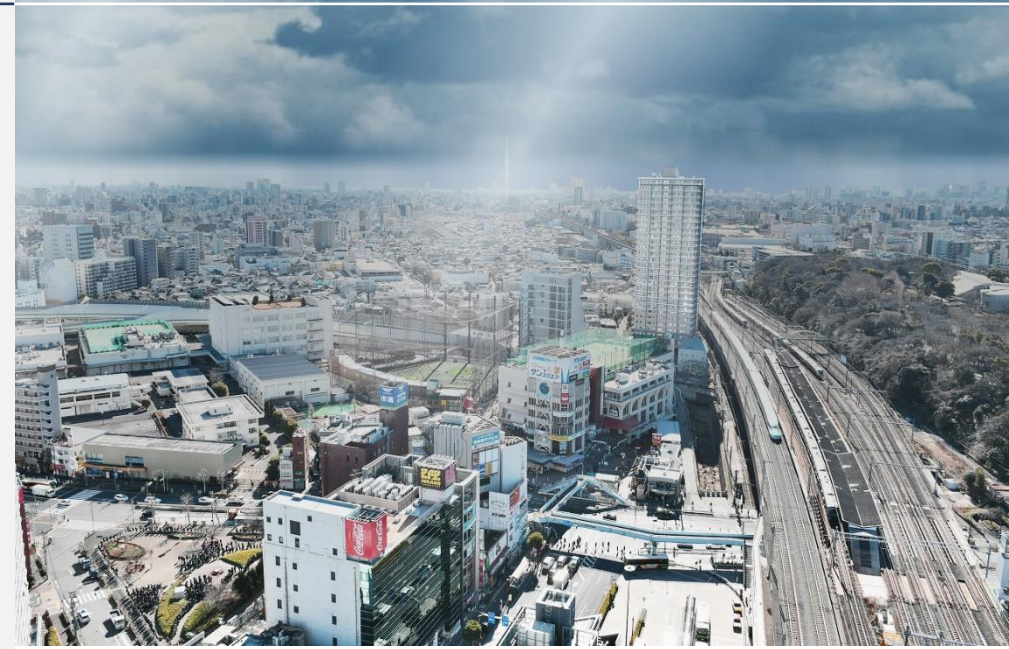
基本計画全文URL：

<https://www.city.kita.tokyo.jp/kuse/shisaku/chosha/kihonkeikaku.html>

1.2 新庁舎検討のこれまで（整備基本方針）



2. 審査委員会



2.1 審査委員

委員名簿（敬称略）			専門分野
委員長	おのだ やすあき 小野田 泰明	東北大学	建築計画
副委員長	きら もりこ 吉良 森子	九州大学（建築家）	建築デザイン
委員	いちこ たろう 市古 太郎	東京都立大学	防災
委員	さかうし たく 坂牛 卓	東京理科大学（建築家）	建築デザイン
委員	なか りゅうすけ 仲 隆介	Naka Lab.LLC. (京都工芸繊維大学名誉教授)	オフィス計画
委員	はぎしま あや 萩島 理	九州大学	環境工学
委員	なかじま みのる 中嶋 稔	副区長	-
委員	いぬかい たけし 犬飼 武	副区長	-

2.2 委員長の総評（小野田委員長×やまだ区長対談より抜粋）



■プロポーザル審査全体について

やまだ区長（以下「区長」とする。）

：プロポーザル審査について審査委員長を務めていただきました、東北大学教授の小野田泰明先生と振り返っていきたいと思います。小野田先生、よろしくお願いいたします。

小野田委員長（以下「委員長」とする。）

：小野田です。よろしくお願いいたします。

区長：基本設計者を決めるために、小野田委員長のもと多様な専門家の皆さまに審査をしていただきました。いかがでしたか？

委員長：そうですね、北区新庁舎建設事業は、基本構想や基本計画等の段階から、慎重な議論を重ねて、基本設計者選定まできた難しい仕事です。こうした難しい案件においては、能力ある設計者の選定は必須です。過去の実績だけでなく、創造的な解決策を真剣に考えられる人材が求められているわけです。

そうすると当然、審査する側もそれに見合う見識と熱意を持つことが求められます。関係者の皆さんと一体になって、我々の社会の未来を真摯に議論して頂ける人材です。様々な方と相談して、それが可能となる審査員の皆さんを選ばせて頂いたつもりです。

2.2 委員長の総評（小野田委員長×やまだ区長対談より抜粋）

■審査委員について

委員長：副委員長には吉良森子先生。建築家で都市計画家です。オランダ在住で、向こうで公的な委員を務められてもおられます。都市や建築だけでなく、世界の中で今「公共」がどういう位置づけにあるのかについてもご示唆いただける逸材です。

防災学の第一人者の市古先生にも加わって頂きました。先生は、都市計画の第一人者でもある佐藤滋先生のお弟子さんで、この基本計画の委員としてずっと議論してきたメンバーです。防災・安全は重要な与件ですが、ここまでいけば安全ということはない難しい概念です。なので、それらを密に議論出来る先生の存在は貴重です。

坂牛先生は大学の教授ですが、自分で事務所を経営され、良質の建築を作っておられます。もともと大きな設計事務所に在籍され、そこで日本オフィスビル設計の父と言われる林昌二氏の薫陶も受けられました。オフィス設計に関して専門的な知識をお持ちだけでなく、海外でも設計論の教鞭を取られる国際派で、本事業の要求にぴったりの方です。



おのだ やすあき

■ 小野田 泰明
委員長
東北大学
(建築計画)

昭和の時代と違い、令和はゆとりを持って働かなければなりません。区民の方々のニーズも非常に複雑かつ多様化しています。そうすると、今までのように机があって、カウンターがあってという環境ではなく、新しい情報機器も使いながら、様々な知的生産を展開していかなければなりません。また、新庁舎ができるのはかなり先ですので、未来を見据えることも必須となります。ですからオフィス環境の知見も欠かせません。ということで、京都工芸繊維大学でオフィス研究を長くされてこられたこの分野の第一人者である仲隆介先生にも加わって頂きました。

萩島先生は九州大学で教鞭を取られる環境工学の専門家です。現代では地球温暖化やカーボンニュートラル、エネルギー消費抑制等について評価することは当たり前になっています。美しい建物ができればいいという言い方は通用しないのです。一方でエネルギーをどうやりとりするかは重要ですが一般的には見えづらい。ということで、この領域を評価して頂くために、日本建築学会などで活躍されている萩島先生をお呼びしました。

2.3 各委員の総評

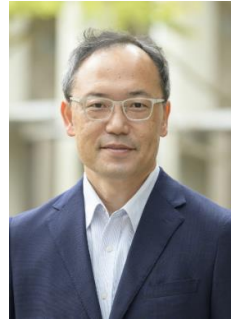


きら もりこ
■ 吉良 森子
副委員長
九州大学
(建築家)

北区新庁舎プロポーザル1等案は他の案と比べて際立って優れていました。

飛鳥山、音無親水公園、王子神社といった、北区ならではの自然と歴史とのつながりを尊重し、災害時の安全性を担保しながら、庁舎と街が自然につながって、新しい魅力的な街の風景となる提案でした。

そして、低層部には街に開かれた、区民が集い、活動する場が計画されています。21世紀の地域文化を育てる庁舎となっていくことを期待しています。



いちこ たろう
■ 市古 太郎
委員
東京都立大学
(防災)

私は都市防災の視点から、審査に参加させていただきました。

新庁舎予定地は、荒川氾濫時に3m以下の浸水および1日以上3日未満の浸水継続が予測され、また、首都直下地震の被害想定調査では、震度6強の揺れが予見されています。

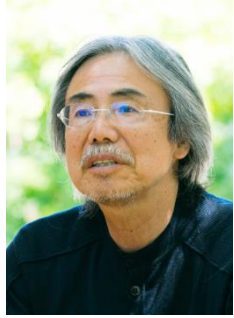
庁舎の構造形式と災害時事業継続への工夫、また、浸水深への対応と飛鳥山方面への避難のあり方といった観点から、言い換えれば区民の命を守り、1日でも早くらしの回復に資する新庁舎の提案を評価しました。



さかうし たく
■ 坂牛 卓
委員
東京理科大学
(建築家)

北区の歴史、地形、水、交通状況などを読み込んで、デザイン性、安全性、快適性、実現性をよく考えられている提案を評価しました。また、実現するためのコストについての視点も大切であると思っており、総合的に優れている設計案を選定できたと思います。外形は区民への親しみを表す重要なファクターだと思います。選定された設計案は、敷地を有効に使い圧迫感の無い低層にしたことに優しさが表れています。

2.3 各委員の総評



なか りゅうすけ
■ 仲 隆介
委員
Naka Lab.LLC
(京都工芸繊維大学
大学名誉教授
・オフィス計画)

長年、大学に席を置いてオフィスの研究を続け、その実践として企業や自治体のオフィス作りのお手伝いをして来ましたので、その経験をもとに審査しました。

具体的には、民官問わず日本中で推進されている働き方改革に基づいた新しい働き方、即ち、働く人のウェルビーイングを高め、組織と働く人の力を最大限発揮できるオフィス環境になっているか、また、提案者に物理的環境だけでなく働き方の改革も含めて実現する力があるかを審査しました。



はぎしま あや
■ 萩島 理
委員
九州大学
(環境工学)

環境工学の立場から脱炭素化への貢献を注視しました。

コスト制約がある状況で、大規模建築をZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)化するのは容易ではありません。

庁舎の基本的機能、構造、意匠を犠牲にせず、むしろ、各要素を高いレベルで満たした上で高い環境性能が提案されているか、それを設計者がロジカルに説明できるか、という点を特に重視しました。



なかじま みのる
■ 中嶋 稔
委員
副区長

平成2年から北区の職員として勤めているため、区民の皆さまや働く職員が何を求めているかという視点で審査しました。

そのため、来庁者に長期間にわたって親しまれるデザインで、使い勝手のよいことや、働く職員がいきいきと能力を発揮できる提案を評価しました。

また、区の財政にも大きな影響を与える多額の費用を要するため、コストは重要であり、その視点でも審査しました。



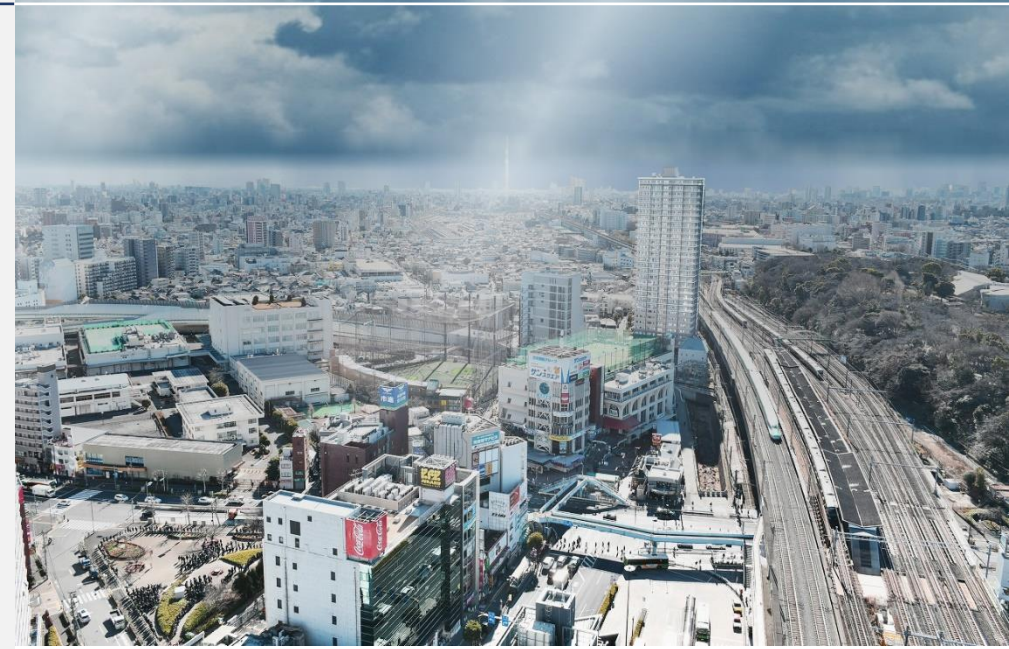
いぬかい たけし
■ 犬飼 武
委員
副区長

国土交通省に在籍していた経験もあるため、主にまちづくりの視点を重要視して審査しました。

そのため、王子駅周辺のまちづくりを理解し、敷地の形状や周辺とのつながりを意識している提案を評価しました。

また、今後の建設コスト上昇に対し、いかにコストを抑える手段を考えているかという視点でも審査しました。

3. 選定プロセス



3.1 プロポーザル審査を振り返って

■プロポーザル審査を振り返って

区長：プロポーザルの実施要項に審査委員長のメッセージも入れていただきました。どういった点がポイントになったのでしょうか。

委員長：参加してくださる方々が安心して、かつ、能力を最大限発揮していただけるプロポーザルにしなければという想いから書いたものです。第2次審査対象者への報償費支払いも、提案されるアイデアの価値は高いという考えからです。もちろん額はまだ不十分ですが。また、区の方針も、王子駅前に庁舎も参画して創出されるにぎわいとは何か、そこで担保される公共性はどうか、さらには環境保全や災害リスクの扱いなど様々です。こうした多様な要素を合理的コストの中で収めていくのは並大抵ではありません。ということで、意義はあるけど難しい事業に参画いただけませんか、という主旨は事前に共有しておいた方がいいと思い、書かせて頂いた次第です。

区長：はい。想いや意図をしっかりとお伝えいただき、それを元にしたイメージをそれぞれの参加者の方々に持っていただいた応募になったと改めて思います。また、他の自治体の新庁舎建設整備においては、割と多くの参加者が応募されると伺っていましたが、今回は先生の想定よりも少なかったと伺いました。いかがだったでしょう。

委員長：これは審査員団の一人として不徳のいたすところですが。推測ですが、都市計画等様々な問題があって期間を長く拘束されることを懸念されたのかもしれない。またこれだけ難しい仕事なので、10,000㎡以上の設計実績を求めた結果、実績のある事務所に限られたということもあります。ハードルをもう少し下げたかったですが、下げると意欲はあるが、経験が少ない人を支える仕組みを事業が備えないといけない。それらのバランスの中で、新しいことにチャレンジする北区のプロジェクトにおいて取れるリスクの閾値はこのあたりではということで、最終的にこの設定になりました。



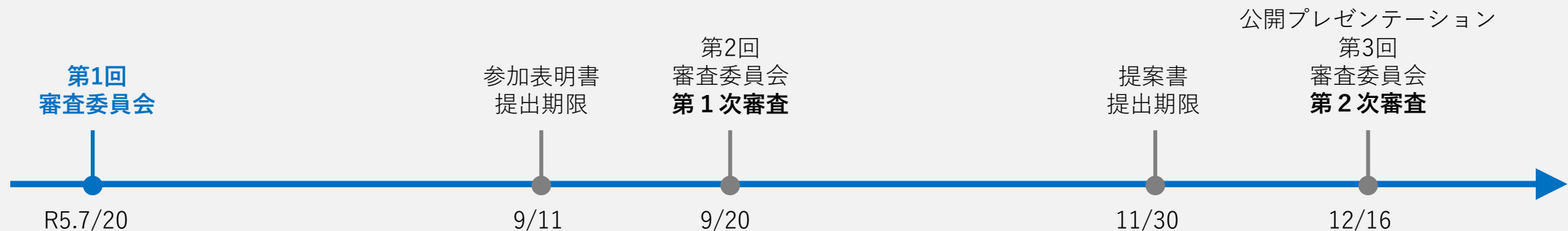
3.2 第1回審査委員会

■プロポーザルのすすめ方と選定基準の審査

- ・プロポーザルの進め方や参加要件などを提示する「プロポーザル実施要項」と、選定基準である「審査方法及び審査基準」について意見交換及び議論を行いました。
- ・「プロポーザル実施要項」では、審査スケジュール、公開プレゼンテーションの開催、第1次審査及び第2次審査にて選定することを決定しました。
- ・審査する上での評価項目及び評価点を決定しました。



■審査スケジュール



3.2 第2回審査委員会

■第1次審査

第2次審査対象者を選定しました。審査基準は以下の3点です。

- ①設計事務所の委託業務の履行能力
- ②設計担当チームの技術力
- ③設計担当チーム構成及び事業に対する理解度と考え方

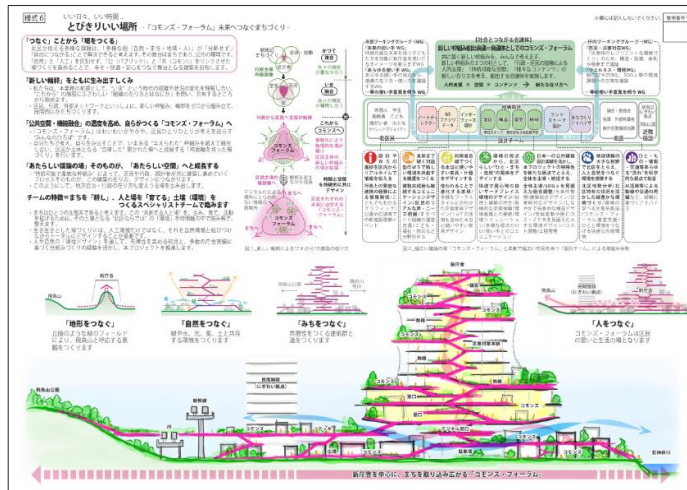
区が実施する他の多くのプロポーザルの第1次審査では、主に①「設計事務所の委託業務の履行能力」②「設計担当チームの技術力」に該当する参加者の実績のみを審査対象とし、第2次審査で提出された提案書に基づくプレゼンテーション、ヒアリングによって審査します。

一方本プロポーザルでは、③「設計担当チーム構成及び事業に対する理解度と考え方」において、第1次審査時から事前提案書の提出を求め、実績だけでなく提案内容も審査の対象としました。

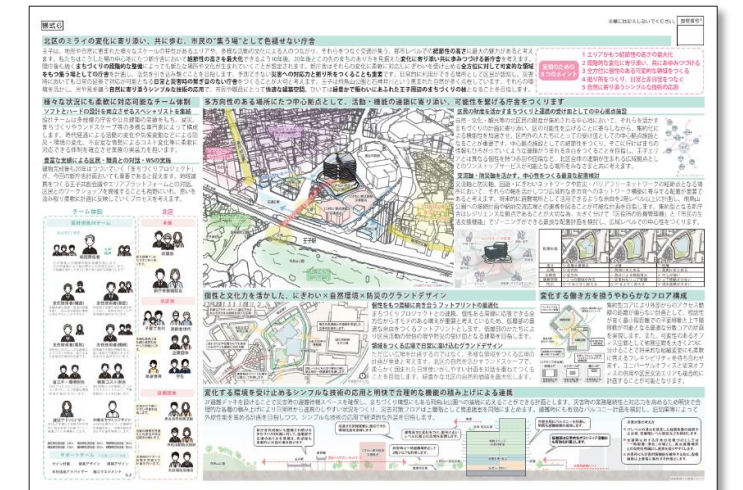
【整理番号 3】



【整理番号 4】



【整理番号 6】



※第2次審査対象者から提出された事前提案書は、資料編に拡大したものを掲載しております。

3.4 公開プレゼンテーション

公開プレゼンテーション

日時：令和5年12月16日（土）

午後1時～5時

場所：北区役所別館 2階 研修室

参加者数：約100名

公開動画URL：

<https://www.city.kita.tokyo.jp/somu/kuse/shisaku/chosha/kihonsekkei/boucho.html>



周知チラシ



3者同席でのヒアリングの様子



【A者】「整理番号4」
株式会社佐藤総合計画



【B者】「整理番号6」
遠藤克彦建築研究所・東畑建築事務所設計共同企業体



【C者】「整理番号3」
松田平田設計・小堀哲夫建築設計事務所 設計共同企業体

3.4 公開プレゼンテーション

【A者】

株式会社
佐藤総合計画



「人・自然・まちと寄り添う日本建築の発想＝対峙から和への転換」：近代社会は人工的に環境を制御することで快適な空間を実現してきました。その自然と対峙する姿勢の結果、負の側面として地球温暖化、想定を超える大規模災害など地球環境の悪化が深刻さを増す中で、私たちは日本文化、日本建築独特の、屋内でありながらも外部に開放されている中間領域「縁側」に着目しました。格子や障子で仕切ること、光・風・風景を人の感覚に応じて取り入れられる「縁側の仕組み」を施設全体に取り入れた“人・自然・まちに寄り添い和をつくる”新しいかたちの庁舎は、高層建築でありながらも「地に根差した」親しみと安心感がある空間、みんなの居場所を提供します。

「新しい区民交流・協働の場（＝コモンズ・フォーラム）」：庁舎自らが、区民との交流の場、区民の居場所を提供することで、北区が有する官民のポテンシャルを最大限に引き出し、これからのまちづくりの原動力となります。5つの中間領域（大屋根ひろば、縁側オフィス、ミライ望楼、環境の連子、賑わい回廊）からなる庁舎を区民とともにつくることで、コモンズ・フォーラムの活動と空間がまちに広がる拠点提案します。

【B者】

遠藤克彦建築研究所・
東畑建築事務所
設計共同企業体



□区民と共に歩む、区民の「集う場」としての庁舎づくりを下記にて進めることを重視します。

- 1、エリアが持つ結節性の高さの最大化：駅前のにぎわい創出からの延長となるネットワークを活かす
- 2、段階的な変化に寄り添い、共にあゆみつつける：区民/職員/関連事業者と対話を重ね続ける姿勢
- 3、全方位に個性のある可変的な領域をつくる：低層部ひろばの計画と上層部スラブの計画による「王子の大地」
- 4、拠り所をつくり、日常と非日常をつなぐ：日常から馴染みをつくり、日常と非日常をつくる計画
- 5、自然に寄り添うシンプルな技術の応用：時勢として変動が予測されるコスト管理を徹底、環境性能も向上させる計画

【C者】

松田平田設計・
小堀哲夫建築設計事務所
設計共同企業体



未来に向けた新しい北区テリトリーオ (territorio) のセンターとなる新庁舎

- つながる「ジオ・ガーデン」王子駅周辺のウォークアブルガーデンからの連続性と浸水高さ（3m）に配慮して、飛鳥山と連続した起伏地形の低層部を提案。飛鳥山、石神井川周辺までを一つのグリーンインフラと捉える。
- ひろがる「テリトリーオ」飛鳥山古墳群、製紙場、王子田楽や狐の行列の伝統文化、音無親水公園など、敷地周辺には様々な魅力的な地域文化資産があり、新庁舎の低層部はそれらをつなげる新たなテリトリーオ拠点となる。
- かさねる「フェーズフリー」常時と災害時、2つのフェーズをフリーにする「フェーズフリー庁舎」。にぎわい創出機能が集まるM2階と2階は、日常的に使う場が災害時にも役に立つデザインとして計画。
- かわりつつける「プラットフォーム」将来的な執務必要面積の減少を見据えて、区民エリアの拡充や民間事業者への賃貸なども可能な、裏表のないどこに居ても心地のよいフレキシブルな平面計画。自然通風や自然採光などを基本とし、新興感染症にも十分に対応した計画。

3.5 第3回審査委員会（審査コメント概要）

仲：各階フロアの大きさはC者が一番大きい。大きいほど変化に追従し、対応しやすい。同じフロアにいることはすごく大事で、情報の伝わり方が全然違う。A者は縁側空間にそういう空間、階段があった。C者はクリエイティブボイドで上下間をつなぐ。彼らもフロアを超えてつながるといことが大事だと分かっている。B者はその点の提案が弱かった。B者の分散コアは非効率ではあるが、つながりながら働くという意味では可能性を感じさせる提案である。空間が良くても使う人が変わらないといけない。C者の働き方も試行しながら変えていく点も評価できる。

坂牛：A者は外観がもう一工夫欲しかった。B者とC者は、外観の安全性やデザインをいろいろと考えている。C者のジオガーデンの提案は、緑化率の少ない東京に緑を増加することができ、「ウォークブル」のテーマにも沿う。B者は、1階～4階までの吹抜けは実際は暗くないか懸念が残った。C者は中央吹き抜けからの採光によって下層まで明るくなるか確認・検討が必要。A者の1階の庇は効果的ではあろうが、コストが高そう。C者の吹抜け廻りは区画のシャッターが必要になりコスト高になるだろうが、その分効果もあるだろう。



市古：A者の浸水ラインを5mに設定することは精神論としては必要だが、もう少し柔軟にリスクを考える方がよい。C者は、浸水が1m、3mを超えた場合など、リスクを多重に柔軟に受け止めて、よく考えられている。B者は1階柱頭免震にすることについて、開放性をつくること以外にも建築のあり方としての提案が欲しかった。敷地外周部に対してしっかり引きをとってまちを受け止めている点は魅力的である。

吉良：C者は北区が作成した計画をどう設計に受け入れるか、そこにつなげようとしている熱意を感じる。反面、GL+3.5mのレベルに人があがってきてくれるかは懸念が残っている。B者は建築的にエネルギーがこもっているが、逆にリスクが高いのではないかと心配した。

萩島：A者は今回の提案が活かされた形でZEB Readyが達成できるのか疑問に感じた。

吉良：ZEB Readyを提案していたが、どのように設計上の配慮を考えているのかエビデンスが見えなかった。

萩島：B者はZEB Orientedだったら達成できるというアプローチに誠実さを感じた。C者はNearly ZEBを目指す野心的な提案であり、論理的な説明であった。

中嶋：C者は来庁者が来るイメージ、コアの考え方など、提案者の中で一番納得感のある説明であった。。A者の縁側空間は本当に職員が求めるオフィスなのか等、庁舎のイメージがあまり浮かばない部分があった。B者に関しては、分散コアの有効性に疑問が残った。

（次ページに続く）

3.4 第3回審査委員会（審査コメント概要、審査結果）

（前ページから続く）

犬飼：B者は敷地に対して建物が閉じてしまっている印象で、都市計画的な視点で安心して任せることができるか懸念が残った。C者の歴史や、つながりなど敷地外の周囲のことも考えジオガーデンを提案していくという説明・姿勢がよかった。A者も都市計画について専門チームがあり、よく理解している印象だった。

A者、C者は、執務空間は階段で容易に上下移動できるようになっており、フロア間の連携は考えられている。

小野田：事業実施において信頼性は重要。C者はエビデンスを提示しつつコミュニケーションしており信頼性が高いと判断した。B者は分散コアの課題となるエレベーター台数のコントロールなどもう少し検証が欲しかった。A者は19階にしなければいけない理由を見出すのが難しかった。働き方にも直結するのでこの階数が適正とする検証があったら良かった。

坂牛：コスト高の中ではA者の縁側空間も縮減の対象になってしまう懸念が残った。

■第2次審査結果

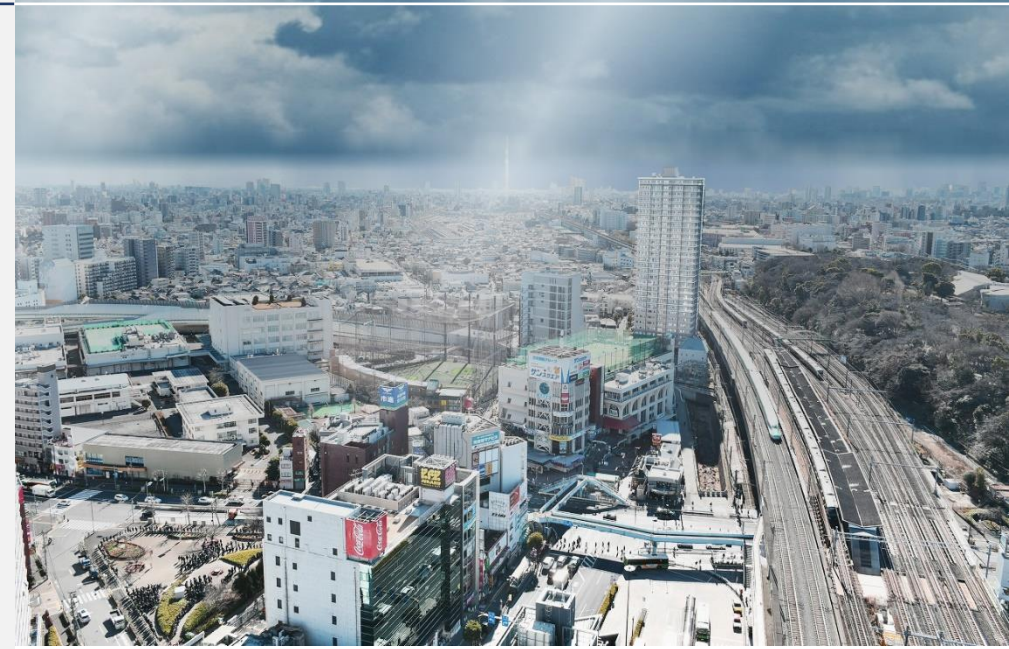
	評価細目（配点）	評定		
		A者	B者	C者
技術提案	提案内容の的確性	130	145	180
	提案内容の独創性	145	165	170
	提案内容の実現性(価格提案)	115	130	165
ヒアリング	本業務への意欲・提案の表現力 質疑に対する的確な応答	105	135	180
減点		0	0	0
合計		495	575	695

（参考）

公開プレゼンテーション傍聴者へ、どの提案がよかったかお聞きしたアンケート結果

A者：2票 B者：4票 C者：34票

4. あとがき



あしがき（小野田委員長×やまだ区長対談より抜粋）

■新庁舎のこれからについて

区 長：これから基本設計を進めていくにあたって、区と基本設計者がすべきこと。期待したいことはどんなことでしょうか？

委員長：プロポーザルは設計の方向性を評価して選んだもので、精度の高い設計図書がまとめられているわけではありません。仕様や性能、安全性等を盛り込んだ実施設計図書まで、これから引っ張っていかねばなりません。矛盾する要求を調整していくことは大変なことです。また、非常に斬新な考え方がいくつか入っていますので、その実現のために従来とは違う考えを区民の皆さんにお許しいただくということも必要かもしれません。決して極端な考えを取っているわけではありませんが、納得いくところまでみんなで一緒に作り上げていく気持ちが共有されることは不可欠だと思います。ご存じの方も多いと思いますが、現在建築コストの高騰が顕著です。ある程度想定はしていますが、この高騰は最低5年は続き、その先も収まらないとも言われています。しかし物価が上がったためそのままコストを上げるというわけにもいかないでしょうから、それをどう整理していくのかという、辛い判断を様々なところでしていかなければいけないようとも思います。そのためには区民の皆さんが自分ごととして、この事業を考えていただくことが大切です。コストを抑えるために要求する機能はそのままに一見無駄に見えるものを何が何でも排するという極端な考え方では、投資全体に無駄が出る危険性も生じます。安物買いの銭失いにならないよう、区民ワークショップなどを開いて機能を一度整理することもひとつのアイデアです。

委員長：このようにプロポーザル案をこれから発展させていかなければならない訳です。その作業をみんなが参画して、楽しい・面白い未来を考える契機にして頂ければ、多様な方々が、まとまっていく大きなムーブメントになるようにも思います。区庁舎づくりは、区民や区職員、皆さんが地域の未来と一緒に考えるきっかけになり得ます。我々もそれに耐えうる真摯な設計者を選んだつもりなので、期待して見守り続けたいと思っています。

区 長：先生がおっしゃる通り、社会環境や経済状況等様々な変化の速度が速い中で、それをどう見通して、何を選択していくか。行政だけで行うのではなく、区民の皆さんと、新庁舎をテーマにして、設計者にお力を貸していただきながら、みんなで作っていくんだということをお話を伺いながら、改めて勉強させていただきました。これは難しい問題でもありながら、みんなで自分たちのお城を作るという意味で、楽しんで、興味を持ってもらえるよう、私たち区も勤めていかなければならないなと思っております。区としても新庁舎の開庁を待つだけでなく、23区で一番古い現庁舎の中でもできることをみんなで考えております。庁舎は古いけど、中に入るとDXが最も進んでいるような、そのような考え方を新庁舎に反映していく。そういうことができないかと考えておりました、職場環境を良くしたいという職員の方々の手上げ方式でDXのプロジェクトチームを作り、職場環境改善に向けた取り組みを始めています。できるだけ情報を公開しながら、区民の皆さまにもご意見を伺い、その検討過程が確認できるようにこれからも頑張っていきたいと思っています。

あとがき（小野田委員長×やまだ区長対談より抜粋）



委員長：いいですね。DX化と口で言うと美しいですが、大変ですし、やり方も様々なため、試行錯誤となります。そういう試行錯誤を、執務をしながら行い、それを新しい庁舎に反映させていく。審査の中で、オフィスの専門家である仲先生が、プロセスメイキングに対する問いかけを提案者に同じように聞いた際に、選ばれたC者は「できることから、今、この場所から一步一步皆さんと検証していきたい」と答えていました。これは今の区長の話ともシンクロする考え方ではないでしょうか。

区 長：非常に心強いですし、楽しみです。

委員長：新しいことをやると労働強化になるのではないか、残業になるのではないか、デジタルハラスメントだという話もあります。けれども、今の世代がそれを乗り越えないと未来の世代が困る。合理的な管理のもと、我々が頑張る所は頑張るとするのは、それなりに重要なことだと感じています。

区 長：はい、ありがとうございます。また、今回の公開プレゼンテーションはアンケートの結果も好評だったと聞いています。今後も区民が参加し、意見を広く聴取できるような取り組みを区と設計者で工夫しながら取り組んでまいりたいと思います。

委員長：素晴らしいと思います。区長がおっしゃったように、選ばれてそれでおしまい、完成しておしまいではなく、そこに至る道筋をみんなで一緒に作っていく、そういう大きな流れの中にこの事業を置いていく、開かれた事業ですよ。専門家や区の行政に任せておけばいいということではなく、一緒に考えていくことは非常にいいことだし、佐藤滋先生からずっと綿々と専門家が関わってきて、皆さんと一緒にあろうとしたということ、また我々も次の世代にバトンを手渡していくということになるんだと思います。

区 長：ありがたいです。小野田先生をはじめ、審査委員の先生方に今後も基本設計の専門家の会議の委員として携わっていただきます。



あとかき（小野田委員長×やまだ区長対談より抜粋）

委員長：若い人たちやお年を召した方等、様々な方が積極的に、区長の明るい人柄に引きつけられて好きなことを言う中から、新しい創造の種が生み出される。我々専門家も上から目線ではなく、一緒に考えていくのは当然かと。

区 長：それぞれの立場の中で、道が広がりながら、定めながら、そういった意味で専門家の先生方にもこれからもご助言をいただきたいと思います。

委員長：ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

区 長：色々とお話を伺い、改めて新庁舎整備事業が本当に楽しみだと思っておりますが、先生はお気持ちいかがでしょうか。

委員長：このような非常に新しい可能性を持った事業に、メンバーとして参画できたのは本当に専門家として喜びであり、同時に責任も重いと感じております。専門家として、しっかり成就するよう皆さんをお支えしていく責任もあると思っています。

区 長：本当に貴重なお話をたくさんいただきまして、本日本当にありがとうございました。

委員長：頑張ってください。ありがとうございました。

本記録誌に記載しきれなかった対談をYouTubeにて動画公開しています。

対談動画URL：

<https://www.youtube.com/watch?v=hMPptzM0O-A>



■協力・資料提供（敬称略）

小野田 泰明

吉良 森子

市古 太郎

坂牛 卓

仲 隆介

萩島 理

株式会社 佐藤総合計画

遠藤克彦建築研究所・東畑建築事務所設計共同企業体

松田平田設計・小堀哲夫建築設計事務所 設計共同企業体

（参加者については整理番号順）

令和6年4月発行

所属課室：新庁舎整備担当部新庁舎整備担当課

〒114-0002 東京都北区王子1-12-4 TIC王子ビル2階

電話番号：03-3908-1201

WebサイトURL：

<https://www.city.kita.tokyo.jp/somu/kuse/shisaku/chosha/kensetsu.html>